

佐渡の貴重な植物群落 17

大佐渡玉崎のトチノキ林

伊藤 邦男

名称……玉崎（たまさき）のトチノキ原生林
 所在地……両津市大字玉崎字坊が浦滝が沢（地名）
 所有地……古澤諭吉（屋号・兵次郎）
 樹種……トチノキ
 樹高……28m（最大のもの）
 幹周……4.30m（最大のもの）
 林相……トチノキ林（3株）

1. トチノキ林

トチノキ林はブナクラス域（落葉広葉樹林域・ミズナラ・ブナ林域）にカツラ・サワグルミなどととも山に谷沿いや、山の凹地にみられる浚畔湿性林である。湿性林といっても、水の常に停滞する立地には、ヤナギ林、ハンノキ林、トネリコ林が成立する。

一方、扇状地や水量の少ない沢沿いにトチノキ・カツラ・サワグルミ林が成立する。トチノキの自然林は4階層構造となるが、亜高木層と低木層はあまり発達しない。高木層の優占種はトチノキ、草本層は陰湿な立地を反映して植被率100%となる。

2. 玉崎のトチノキ林

『玉崎（たまさき）のトチノキ原生林』は、両津市玉崎の滝が沢（たきがさわ）の沢の右岸斜面にみられるトチノキ自然林である。玉崎は両津市街より、両津湾沿いの県道を北上、距離約10km、時間20分の地。玉崎の字坊ヶ崎（ぼうがさき）より徒歩15分で林に着く。海沿いの海岸道路は観光車、自家用車の疾走する車道。この車道より徒歩15分、忽然とあらわれるトチノキ林。それは自然の保たれた原始の森、まさに「トチノキ原生林」である。林は海拔50～60mの傾斜30度の南東むき斜面にある。

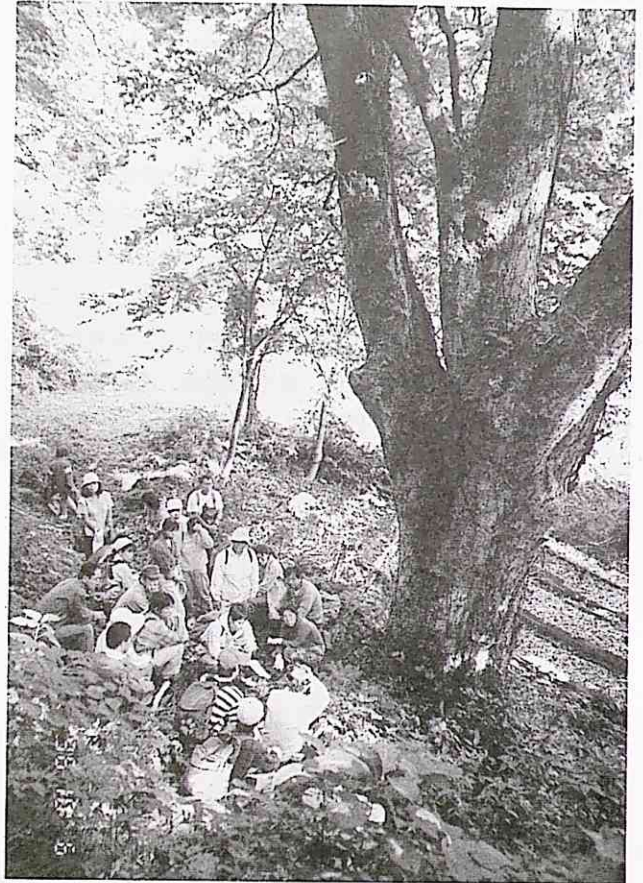
斜面の下側に3株のトチノキ。向かって左側のトチノキの実の熟期はナカテ（中生）、向かって右側のものはワセ（早生）、中央のものはオクテ（晩生）と、自然はすばらしい配置をしてくれる。斜面の上部には、上下に縦に2株が配置する。

斜面下部の向かって右側のトチノキの計測値（1996年）は次の様である。

①樹高28m ②幹周（地上高1.3m）は4.30m、根元幹周4.67m。樹冠幅は北へ16.55m、南へ14.80m、東へ14.30m、西へ13.85m。1株だけでもみごとな巨木。3株となると『トチノキ原生林』と呼んでよい。"原生林"は誇張ではない。

3. トチノキ林の植生

(1) 高木層 高さ28m、植被率90%、トチノキ（5・5）



玉崎のトチノキ林 自然村訪の一行

(2) 亜高木層 高さ2～4m、植被率5%で貧弱。ヤマモミジ、ツルマサキ、スギ、オニグルミ。

(3) 低木層 高さ1～2m、植被率20%で貧弱。林床の草本層に混じる。

ヒメアオキ（方言アオキ）、ハナイカダ（方言イボナ）、ハイヌツゲ（方言ビンカカ）、ハイヌガヤ（方言ヒョウビ）、ガマズミ（方言アカモンジャ）、エゾアジサイ（方言ヤマアジサイ・アンサバナ）、ヒサカキ（方言サカキ）、ミツバウツギ

(4) 草本層 高さ1～2m、高茎草本ややシダ類が目立つ。高茎となる草本はコウライテンナンショウ（方言ヘビノダイハチ）、ヤマトリカブト（方言トリカブト）、オオウバユリ（方言ヤマカブラ）、ミヤマイラクサ（方言イラクサ）、サラシナショウマ（方言オトコトリアシ）、シシウド（方言サイキ・セエーキ）、ウド、ゴマナシダ植物は、オオバノイノモトソウ、クジャクシダ（方言ヨメノハシ）、ワラビ、サカゲイノデ、リョウメンシダ（新潟県のシダ）、クマワラビ、ヤマイヌワラビ

(5) 林縁マント群落の中・低木

ムラサキシキブ、モミジイチゴ(方言キイチゴ)、クサギ、アカメガシワ(方言アカメン・アカメンメン)

(6) 林縁マント群落のつる植物

フジ、キツネササゲ、キカラスウリ(方言ダンベ)、マタタビ、アケビ、ヤマノイモ(別名ジネンジョ)、センニンソウ(方言ウジコロシ)、ボタンズル、イワガラミ、ヘクソカズラ

(7) 林縁ソデ群落植物やその他

ミズヒキ、ミヤマカタバミ、ホソバカンスゲ、クガイソウ、セントウソウ、チヂミザサ、ススキ、タマバシロヨメナ、ノアザミ、ヨモギ、オオタチツボスミレ、ヤマクマバナ、キンミズヒキ、ヒナタイノコズチ、ノコンギク(方言ヨメナ)

4. トチの巨木の森での植物観察会

県道より山道徒歩15分で「トチの巨木森」。原始の世界にタイムスリップした感じ。毎年、この林の下で植物観察会が行われる。島内各市町村の自然探訪会の皆さん。自然

と植物の愛好の皆さんが参加する。

トチノキ林下のユリワサビの花が終わって、5月の下旬頃、トチノキの花盛り。樹冠を埋める神楽鈴(かぐらすず)の形に似たトチの花、花、花。この林は花を訪れるハナバチ、ハナアブの翅音で10日間余はにぎわう。

5月の若葉の頃もよい。6月の花盛り、秋の黄葉の林。原始の森へすぐ行けるのがよい。

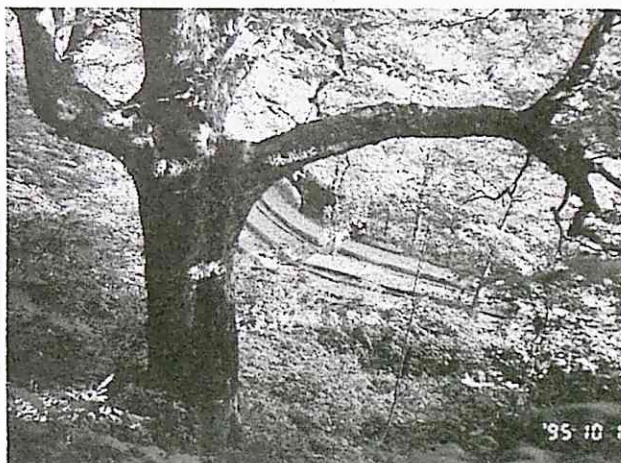
主催者は両津市玉崎の古澤諭吉さん。根っこからの自然派、自然人。カヤ葺きの母家で、トチノキ原生林下で育てた天然マイタケ(舞茸)。天然岩ガキの数々の自然料理でもてなす。連絡は古澤諭吉方(Tel. 0259-25-2528)

5. 「新潟県」のトチノキの巨樹

新潟県環境保健部環境保全課発行の「新潟の巨樹」(1992)には、新潟県内のトチノキの巨樹が記載される。巨樹の幹周順位表により、順位1位は、津南町結束滝ノ上の大峰様のトチノキで、幹周 7.95m、樹高25m。2位は両津市和木の和木山のトチノキで幹周 7.70m、樹高25m。3位は五泉市菅名岳のトチノキで幹周 7.17m。



舞茸の自然栽培地・栃の巨木森



トチノキ原生林下でのマイタケ自然栽培地

手作り「トチ餅」

(古澤諭吉)

かや葺き屋根の我が家では、家(両津市玉崎)から歩いて15分(標高50m)の山に樹齢300~400年のトチの巨木の森があります。9月中頃になるとトチの実が落ちてきます。その頃になると母親は落ちたトチの実を拾い集めに毎日、毎日山道をこの森に通います。

一粒、一粒拾い集めたトチの実は、水を入れた桶に入れて3~4日昼夜漬けて実の中の虫を殺した後、むしろの上に広げてカラカラになるまで天日干しします。

「栃餅作り」は天日で干し上げたトチの実を2~3日水に浸し、さらに熱めのお湯に浸して外皮を柔らかくし、指で一粒ずつつまんで実を回しながら石でトン、トン、トン、トンと叩いて外皮を剥き、実を取り出します。この剥き実を流水に一週間ほど晒してトチの果実特有の苦み(アク)をあらかじめ除いてはじめて食用になります。すべて抜いてしまうとトチの実特有の風味がなくなるので、その加減が難しくここが母親の技となります。

この後、剥き実をナラの木灰の煮汁に入れ一晩漬け置き、翌朝取り出して水洗いします。このように処理したトチの実を、ナラの薪を燃やして沸かしたセイロでモチ米と一緒に蒸し上げて混ぜ合わせ、お餅につきあげます。

こうして出来上がった「母親の手作り一栃餅」は、田舎の本格的な山の風味が味わえる心温まる一品です。

食べ方-そのまま焼いて、熱い番茶おかゆに入れて、甘いあずき汁こに入れて、などでお召し上がり下さい。